

2024年度静電気リスクアセスメント研究委員会活動報告

1. 静電気学会静電気リスクアセスメント研究委員会

静電気リスクアセスメント委員会は前身の委員会である静電気障害災害委員会を基に静電気学会に設置した。リスクアセスメント実施が法的義務化されたことをきっかけに2013年から名称を変更して改めて設置した。学会会員からの要望もあり、引き続き更新して11年間活動できており、委員会も37回開催できた。現場の静電気対策・リスクアセスメントの実施やその問題点、トラブルシュート、事故などをメンバーから話題提供してもらいメンバーで議論している。委員会の履歴が参考文献の研究委員会紹介にもあるように、活発でとても有益な研究委員会活動が長くできている。静電気学会および委員会メンバー各位に感謝する。

2024年11月現在、委員会メンバーは28名であり、委員長：大澤敦、幹事：最上智史で運営している。参加は、NGKケミテック、大塚化学、春日電機、カネカ、産総研、シシド静電気、シバタ工業、消防研、新東工業、住友化学、高砂香料工業、東京電機大、東洋インキ、トーヨーカラー、東洋合成工業、トクヤマ、日東電工、PIEC、ファイザー、三井化学、三菱ケミカル（順不同）からで、大学や研究所よりも企業からの方が多く、実践的な研究委員会である。

2. 2024年度研究委員会活動

静電気リスクアセスメント委員会は、現在年3回行っている。2024年度は、11月現在、2回行っており、3回目は12月10日に開催される。ここでは、2024年度に実施した2回分の委員会の内容を紹介する。

第36回（2024年度第1回）

開催日：2024年4月15日

場 所：春日電機

内 容

- 静電気着火リスク分析に関連した可燃性雰囲気拡散範囲の評価方法
- サイフォンポンプを用いた液体移し替え作業時の静電気危険性
- マジックテープの実験と静置時間の問合わせ結果

第37回（2024年度第2回）

開催日：2024年9月9日

場 所：西日本総合展示場（第48回静電気学会全国大会と同会場）

内 容

- 遠心分離機洗浄中のアセトン蒸気への着火事例
- 化学反応器内の液体をサンプリングの為にポンプで循環させる作業を実施した時の静電気着火（リスクアセスメント検討内容の紹介）
- ドラムへの可燃性液体の移送方法と導電性ドラム接地の必要性を理解させるための実験方法

このように先にも述べたように、事件事例報告や、各工程における静電気対策の問題点やリスクアセスメント、静電気安全管理を検討する内容が多い。本委員会はこれらの話題に関してメンバーが自由に活発な議論をし、解決策などを提案し、メンバー内で認識を共有化することを目的とした場である。このように本委員会はメンバー一人ひとりの貢献が非常に大きい。この場を借りて、メンバーには深く感謝する。

本委員会は基本的に対面・リモートのハイブリッドで行っている。対面で参加したメンバーのみになるが、毎回意見交換会を開催しており、この場でもその日の話題に関連した内容を、さらにくだけた雰囲気の中で活発に議論される時間ともなる。

3. 最後に

今後も静電気災害を防止するための実践的な知識や情報を静電気学会会員に提供して、可能な限り広く共有することが重要であると考えている。

本委員会では、メンバーに話題を提供してもらい、その内容に関して、メンバー全員で、情報や解決策を共有化することも目的としている。多様な意見がさらなる本委員会の発展に寄与すると考え、多くの会員の参画を希望する。

4. 研究委員会連絡先

参加希望や問い合わせなどは下記までお願いします。

大澤敦

atsushi.ohsawa@mail.dendai.ac.jp

参考文献

大澤, 最上, 静電気リスクアセスメント研究委員会, 静電気学会誌, 48, 1 (2024) 14-16.

(大澤 敦, 最上 智史)